2009年4月から2018年5月の間に研究に参加してMRI検査を受けた皆様へ

量子科学技術研究開発機構と広島大学、国際電気通信基礎技術研究所、沖縄科学技術大学院大学、東京大学、山口大学では、以下の共同研究を実施しています。この研究の詳細について詳しくお知りになりたい場合には、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲で、研究計画書や研究の方法に関する資料を閲覧いただくことができます。また、個人情報保護法に基づく個人情報の開示・利用停止等の手続きを希望される場合には、下欄の問い合わせ窓口までお問い合わせください。

【研究の名称】MRIを用いた精神疾患の病態解明及び客観的診断法確立のための多施設共同研究	
①	<p>試料・情報の利用目的及び利用方法 (他の機関へ提供される場合はその方法を含む。)</p> <p>●研究の目的 精神疾患の診断方法を確立させるためには、多くの方の脳画像データを解析することが必要ですが、個別の研究グループが短期間で多くのデータを集めることは難しいです。そのため、本研究では、多施設で行われた脳画像データを共有し、多数例で脳画像の解析を行うことで、精神疾患にはどのような脳の特徴があるのかを調べます。</p> <p>●研究の対象 2009年4月から2018年5月の間にQSTにて行われた下記の研究に参加した方で、MRI検査を受けた方： 「機能的MRIと生理心理指標を用いた社会認知メカニズムの解明」 「ドーパミン作動性神経系と自己意識・他者意識との関連」 「セロトニン作動性神経系と視覚体験に関する研究」 「解離・転換症状の認知神経機能に関する研究」 「糖尿病神経障害に伴う痛み体験と脳内ノルエピネフリントランスポーター及びセロトニントランスポーターに関する研究」 「主観的体験の生成メカニズムの解明」 「ニューロフィードバックと認知神経機能に関する研究」 「視覚体験の認知神経基盤研究」 「糖尿病神経障害に伴う痛み体験に関する研究」</p> <p>●利用（又は提供）方法 利用する情報からは、お名前、住所など個人を直接同定できる個人情報は削除します。共同研究機関に個人を識別できる情報が提供されることもありません。パスワード設定がされているセキュリティ強化された暗号化された接続を用いて、直接アクセスが可能なネットワークを介して共有します。</p>
②	<p>利用し、又は提供する試料・情報の項目</p> <p>年齢、性別、脳画像データ（MRI、脳波）および心理検査データ（行動実験データ、質問紙データ）</p>
③	<p>利用又は提供を開始する予定日及び研究期間</p> <p>研究機関の長の許可日～2030年3月31日</p>

④	試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名	●量子科学技術研究開発機構（QST 病院長 石川 仁）
⑤	提供する試料・情報の取得の方法	別途実施済みの研究データを使用しますので、新たな質問や検査の必要はありません。
⑥	提供する試料・情報を用いる研究に係る研究責任者（多機関共同研究の場合は研究代表者）の氏名及び当該者が所属する研究機関の名称	研究代表者：岡田 剛（広島大学）
⑦	利用する者の範囲	●広島大学大学院医系科学研究科精神神経医科学 研究代表者：岡田 剛 ●量子科学技術研究開発機構量子生命科学研究所 研究責任者：八幡 憲明 ●国際電気通信基礎技術研究所 研究責任者：川人 光男 ●東京大学精神医学精神医学教室 研究責任者：笠井 清登 ●山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学分野 研究責任者：松尾 幸治 ●沖縄科学技術大学院大学神経計算ユニット 研究責任者：銅谷 賢治
⑧	試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子生命科学研究所
⑨	研究対象者等の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する旨	本研究の研究対象者に該当する可能性のある方（又はその代理人の方）で、情報を研究目的に利用又は提供されたくない場合、2025年9月30日までに下記⑩の問い合わせ窓口までご連絡下さい。この調査へのご自分の診療記録の使用をお断りになったとしても、なんらかの不利益を受けることはありません。いつでもお断りいただけます。ただし、期日を過ぎてデータが解析でまとめられてしまった後等には取り除くことができない場合があります。
⑩	研究対象者等の求めを受け付ける方法(問い合わせ窓口)	千葉県千葉市稲毛区穴川 4-9-1 量子科学技術研究開発機構臨床研究支援課 電話；043-206-4713 平日：9：00～17：00

※本研究は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の研究として開始しましたが、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」遵守に変更して実施します。